

發行兼編輯人 川崎文治

本社下町香地（電話六三〇番）印刷所 常盤毎日印刷所

定部金貳錢 廣五號十二 休日曜大祭 福島縣不城郡平町長崎町三五
 料告字詰一行 刊祝日ノ翌 發行所 常盤毎日新聞社 電話六三〇番

常盤新聞

刊夕日二十二月二

常盤論壇

人口政策の根本義

今里準太郎

（承前）

故に之が増額を計るべきは勿論のことながら更に余は一步進んで我國移民の南米開發事業の資産として低利資金を以て之に充て彼の地に於ける我國民の移民事業を擴充することが必要にして之の獨り南米のみならず世界的に我國民の移住する地に對して之が救済を圖ることに心掛くべきである、第四は亞細亞民族の政治的、經濟的發達を圖る爲めに亞細亞聯盟を確立しなければ

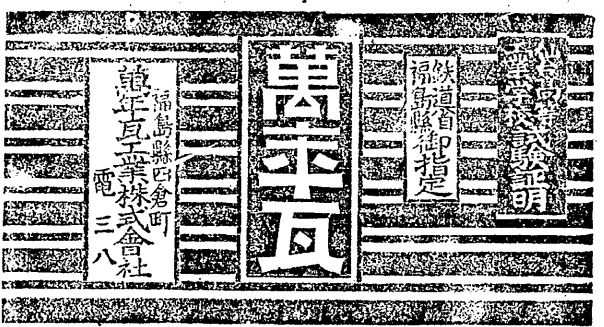
ならぬと思ふ云ふまでもなく亞細亞は我が東洋民族の集合せる地にして歴史を緋くまでもなく東洋に於ける各國も密接なる關係を有するものにして之が平和を期することは最も必要だと思ふこの意味に於て余は亞細亞民族の利害關係を協調する爲め亞細亞に於ける諸國の圓滿なる聯盟を締結することを力説するものであるこれが現今世界各國の加盟せる彼の國際聯盟の如き形式に於てなしたならばどうであらうと思ふ然しながら同聯盟も只戰爭を防止するの聯盟たるに止まり進んで此の外何等の方法に出でず

ば極めて偏狭なものなりと云はなければならぬ故に余はもつと廣き意味の前記各場合を考慮し眞の平和を計るべきだと思ふ即ちこれが實現することによつて初めて我國の人口問題が解決され東洋民族の平和を招するものなりと云ふべきであると思ふ

（をばり）

一冊の代金で御希望通りな五冊の雑誌が自由文庫川崎巡文庫

（申込次第規則書進）



香りの良い茶

森永宇治かほる

百二十夕入.....八十五錢
 七十夕入.....五十錢
 四十夕入.....三十錢

實用と經濟さを兼ねたる徳用袋入宇治かほるは本場宇治茶の香り高く御茶漬用として好適です

マツモトヤ

平町四丁目 電二一四番

山古印醬油

美味 經濟

元造 鹽屋山崎合名社會

電話 一〇〇七番

電話 二七〇番

松吉屋本店

電話一四二番

清酒 鶴仙

石城郡平窪村

加藤營業所

平白銀町十五番地
 振替口座仙臺六二四三番
 電話三二番二五五番

仲間町 商店向 十圓
 同勤人向 四圓
 櫻町勤人向 八圓
 内郷村小島 勤人向 六圓
 白銀町 勤人向 十圓
 商店向 辛圓

神戶火災 平代理店
 東洋火災 平代理店
 共保生命警東代理店
 御用は電話三二番へ

磐城セメント

和洋銅鐵 釜屋商店

金物問屋 磐城平町五丁目 電話九番 一三九番

▲良品廉賣、勝る商畧なし▲
 ▲確實敏捷は釜屋の生命なり▲

吉田眼科醫院

平町屋紺

賣れ行きが事實を證明する
 品質聲價共に拔群の!!

御定食

牛鳥なべ 味噌タレ有り、
 品 7-金壹圓
 品 10-金壹圓五錢
 品 12-金貳圓

晝食 夕食 晩食

見習子弟 十二歳より 十六歳まで
 給仕小女 十四歳より 十八歳まで

平町一丁目 電話二六〇番
 ラヒターエフカ

株式賣買

諸株式の賣買に應じます
 取引は迅速を第一とします
 取扱は親切を旨とします
 川添房次郎は當店に關係なし

株式現物賣買「電略〇ト」
駒場四郎商店
 平町田町六八

桐谷前社會課長が 精神作興の講演を

全縣下に行ふ

元本縣社會課長平町胡摩澤在任の桐谷文平氏が發起となり二月十一日の建國祭に於て與國會並に國柱會と提携し各教育會と連絡して國民精神作興の講演會を開催する筈であつたが、舊年末に迫つてゐたので一時中止したのであつたが、今度改めて計畫し各地の求めに應じて國體精神の大宣傳運動をなす由

航空船が 平の上空を

飛んで仙臺へ

十九日帝都訪問航空に成功した霞ヶ浦航空船隊一號型航空船は今月中場内訓練航空を行つた上三月上旬水戸及び小名濱、平町の上空を經由する仙臺訪問の航空を行ふ筈で準備中である

ピアノ披露

音楽會を開く

平第一小學校にては過般購入したピアノの披露を爲す爲め來月十八日午前九時半より同講堂にて兒童音樂演奏會を開く

石城酒造石數 各地へ移出高

平稅務署最近の發表に係る

石城校長會議

本日より開く

既報石城郡小學校長會議は本日午前十時より郡會議室にて開會、左記事項を協議し明日も繼續する由

勿來信用總會

石城郡勿來町信用組合にては廿二日午前一時より小學校にて通常總會を開き尾形主事出席する筈

増田義一氏

平町外十一村聯合青年總會

既報來月十日午前九時半より平劇場にて開會される平町外十一ヶ村聯合青年總會の講師は實業の日本社長

アワヤ大事

昨日の小火

平町仲田町ライイト寫眞館勝手口から二十一日午前十時

交番の窓硝子を 破壊した泥酔漢

巡查にまで暴行を働き

石城郡泉村大字中町農玉橋勝男(三)は昨日午後八時頃泥酔し平驛前にて通行人に喧嘩を賣り殊に警邏中の武藤巡查に突き當つて暴言を吐き掛けあまつさい驛前の交番に亂入して窓硝子を破壊する等亂暴浪籍の限りを盡し平署に檢束さる

松タケ栽培

玉山が好適地

本縣山林課では農家經濟を圖るため副業として今年秋から松茸の栽培を奨励する事に決し目下谷村技手が主任となつて研究して居るが



失火の際の心得 (上)

過つて火を失した場合には決して狼狽してはなりません。落つて消火に努めたならば、大抵は大事に至らないで消し止められるもの

獵天狗の面々

湯の宿の賑ひ

既報平獵友會主催高野鏡泉附近の山狩り一行四十八名は午前八時好間村から獵を開始し鏡泉附近に到着審査員渡邊貫一氏が始め松永、織田、乃木の諸氏が獵物調べを行つた結果一等賞の資

でありました。アルコールや石油や揮發油など揮發性のものに火が入つた場合には手早く蒲團か毛布類を被せその上を踏みつけると消えます。火鉢の灰をうつしてもよろしい。薪や炭火から起つた場合は水が多量に注ぎかけるか、土または砂をかけるかよろしいので

四倉町の 火打ち祭り

闇を縫ふ火龍

石城郡四倉町に行はれる火打ち祭りは來る十二日より向ふ四日間亘つて毎夜行はれるが、講中は新町組、中町組の二手にわかれて同町海岸を境として三ヶ所にわかれて火打をなすが、當夜は近郷近在より老若男女の參詣するもの同海岸に集まり、萬餘を數へる大賑ひを呈するが同祭りは兩組台にわかれて火を投げあふので闇夜の中を火の玉が無數に空中に躍りあひ頗る壯觀なりと云ふべく、且火焼ける者や眼を悪くしたりする者も多數簇出するが、しかし負傷したものや勝組のものは何れも今年は大漁があると迷信をかつぎ却て大喜びである

同行の 馬鹿に

なつて居る

き子に「腹の虫が納りさうか」と肩を叩けば部厚な近眼鏡をすかして見る眼をトロカシて唯譯もなく「ウヘラ」と笑ふ、僕は清酒と絶縁してから足掛け四年夫れに先日不精者のフケ澤山な頭よりはと髪を短かく刈り込んだお陰で鼻カゼを引き鼻が全々

陽氣な 杜氏等の酒

造唄を聞きムロを見せて貰

つてから小憩の後今度は第二の視察場たる松本金次郎氏の「鶴仙」醸造倉庫へ向ふ、整全たる倉庫内の有様に感嘆してその二階の酒造室に上る、永山組合長が「諸君が來られる爲めに特に掃除をした譯ではない」との

募集

文藝其他投稿

まし、書餐の宴に着き永山組合長の挨拶、滑川警中校長の謝辭にて生一本の「鶴仙」が後からと運び込まれ岡部稅務署長が奇聲を發して座間を轉旋する等非常に賑ひを見せた

酒の可む

みづら

今や酒造の最盛期であり殊に本年の出來榮は稀れな好成绩であるからと云ふので石城酒造組合では昨日

酒造の實況視察に 上戸黨喉を鳴らす

自動車五臺に分乗し 昨日平窪村へ

夫々分乗、平町を横斷してまつじぐらに一路平窪村に飛ぶ、銘酒「勿來」の醸造元である松本徳一氏に迎はられた一行は先づ同家の酒造用米を精白するタービン水車を見せて貰ふ、是れは電氣動力に據らず、水壓を利用して一日五六俵の米を樂につく事が出来ること云ふ装置、夫れから愈々酒造倉へと突入する段取り、

萬更妙な氣が起らぬ譯でもなかつた、陽氣な杜氏等の酒造唄を聞きムロを見せて貰つてから小憩の後今度は第二の視察場たる松本金次郎氏の「鶴仙」醸造倉庫へ向ふ、整全たる倉庫内の有様に感嘆してその二階の酒造室に上る、永山組合長が「諸君が來られる爲めに特に掃除をした譯ではない」との

除をした譯ではない」との說明が、あつたが實際チリ一つとごめぬ迄によくふきぬかれた板の間の清潔さには一行の面々悉く感に耐えざる面持ちであつた夫れから同家の庭園に陣取り記念の撮影に移つたが豊

常な賑ひを見せた(川崎生)